

「個別の支援計画」の活用について

支援部主任 堅持 タ子

9月に入り今年度の学習も軌道にのってきた頃と思います。また、夏季休業中に実施した保護者との面談や、「個別の支援計画」「個別の指導計画」の前期評価を基に、後期の計画を立てている時期ではないでしょうか。子どもたちの教育的ニーズに応じた支援の充実に向けては、一人一人に作成している「個別の支援計画」及び「個別の指導計画」の活用が役立ちます。

今回は、「個別の支援計画」の作成・活用のポイントと実際の活用場面についてお伝えします。

【 個別の支援計画の作成・活用のポイント 】

- ① 作成する目的や必要性、活用方法を保護者に説明し、作成や関係機関への開示に対して保護者から同意を得ることが必要です。
- ② 関係者・関係機関が本人や保護者の願いを共通理解し、先を見据えた支援を考えます。
- ③ 「個別の支援計画」と「個別の指導計画」における目標、支援内容の関連を図ります。
- ④ 保護者と合意形成した上で決定した「合理的配慮」を記載することができます。
- ⑤ 校内委員会や学年部会等において、教職員間で情報を共有します。
- ⑥ 進級や転学、進学に当たっての引継資料として活用することができます。
- ⑦ 保管や活用に当たっては、個人情報の保護に十分配慮する必要があります。

秋田県総合教育センター「特別支援学級担任の手引き～全校で支え合うために～」より

【 実際の活用場面 】

本人や保護者との面談等で・・・

○作成や評価の際は、保護者と一緒に話し合い、確認しましょう。本人や保護者の願いをもとに少し先の長期目標（1年後の姿等）を共有できると、必要な支援がより具体的になってきます。

（作成・活用のポイント①②③④）

○本人、保護者と担任が「個別の支援計画」を一緒に見ながら確認することで「目に見える形」でやりとりができ、学校と家庭が同じ方向を向いて支援を行うことができます。日々の情報交換もスムーズに行うことができます。

（作成・活用のポイント②）

校内委員会、ケース会議、学年部会等で・・・

○関係者で見合いながら話し合うことで、子どもの実態や支援目標、手立てを共通理解することができます。また、それぞれの役割分担が明確になりチームで支援することにつながります。

（作成・活用のポイント⑤）

日々の生活場面で・・・

○子どもの支援目標や支援内容を学校等や家庭でいつでも確認できるようにすることで、定期的に計画を見直しながら、支援の評価を行うことができます。さらに、「個別の指導計画」との目標のつながりを意識すると、支援の内容が明確になってきます。

（作成・活用のポイント②③）

進級、進学先等への移行の際に・・・

○保護者の同意を得て引継資料として渡し、情報を共有する場をもつことで、新しい生活への移行がスムーズになります。資料を引き継いだ際は必ず目を通し、必要に応じて前担任から情報を集めるとよいでしょう。

（作成・活用のポイント⑥）

※「個別の支援計画」は、本人や保護者が主体となって作成するものです。就学前から成人期まで引き継いでいく資料となり、支援を考える際の基になるものです。子どもの資料等のファイルの一番上に綴じて、いつでも見ることができるようしておくくと有効に活用ができます。



本校の ICT 活用の取組について Ver.2

職員研修会から

夏季休業中に職員 ICT 研修会を実施しました。今回は、入力支援機器や VOCA（音声出力会話補助装置 Voice Output Communication Aids の略称）等について研修をしました。

視線入力装置や様々なスイッチ機器、タブレット型端末用の VOCA アプリ等进行操作しながら、担当する児童生徒への活用を具体的に検討することができました。



写真1
様々なスイッチ類



写真2
視線入力装置(Tobii Eye Trcker5)
※画面上の風船に視線を合わせると
風船が割れるしくみのゲームソフト

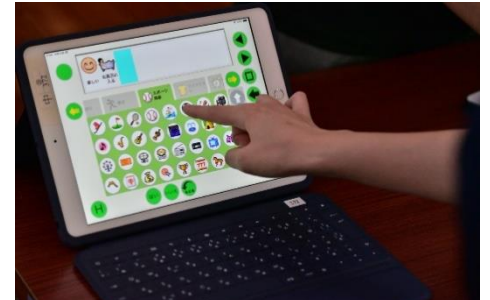


写真3
VOCA
(トーキングエイド for iPad)

指導事例から

本校における入力支援機器活用の事例を紹介します。体の動きをカメラが捉えて、スイッチとして働く「iOAK」という iOS 用アプリと、電池で動く機器のオンオフを制御できる「Mabee」という乾電池型の IoT 機器を組み合わせ、「体を少し動かすことで、電動のシャボン玉マシンや水鉄砲を操作する」ことを可能にした実践です。児童がスイッチに直接触れなくても、体の動きを感知してスイッチが作動するので、児童の負担が少なくなり、機器の操作に専念できました。自分の行動が、友達とのかかわりにつながるという経験を通して、主体的に行動する姿が見られました。

この機器のセッティングは、比較的容易にでき、教師の負担感も少なく活用することができました。



写真4
電動シャボンマシンを体の動きで操作



写真5
乾電池型 IoT 器機
「Mabee」

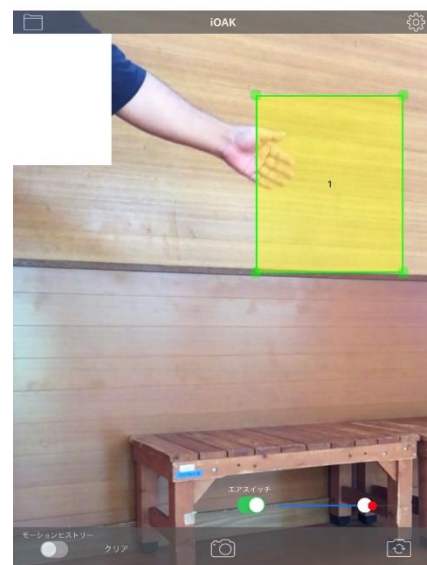


写真6
iOAK の画像写真
画面右上の枠がスイッチとして機能する